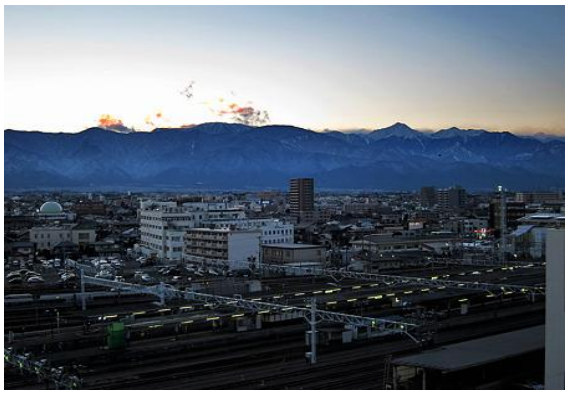
和歌山への出入り口

鄭　有芝
（韓国・経済学部１回生）

和歌山を初めて訪ねる人たちが初めて和歌山に会う場所は駅である。和歌山を訪ねる人は誰でも駅によらなければならない。私も長野県の松本から和歌山に初めて来たとき、最初に踏み出した場所が和歌山市駅である。駅はその地域の出入り口であり、その地域の特徴を表す顔でもある。なので、私はどこの地域に行っても最初にその地域の駅に着いたときに感じた印象や雰囲気を大切にしている。

私は日本に２００９年に来て、２年間長野県の松本市で暮らしていた。おばさんが松本市に住んでいたから、私は松本がどういう雰囲気を持っている都市なのか何も知らず、期待と心配に胸を膨らませて松本駅に着いた。

私が最初に感じた松本駅は小さかった。しかし､人々が余裕をもって歩いている､また、明るいし元気があふれている、まるで私を歓迎しているような姿だった。駅の近くには高いホテルが並んでおり、きれいに整えられている。



松本駅の特徴は駅から出たらすぐ、デパートや居酒屋が集まっていること。ちょっと町の中に入り２０分ぐらい歩いていたら松本を代表する松本城が待っていることだ。松本市は和歌山より田舎であり、小さいが私は松本駅に最初についた時からすぐ松本が好きになってしまった。

私が和歌山を最初に訪ねたのは今年３月であった。その時は和歌山大学の試験を受けに来たのであるが、当時は和歌山には知り合いが一人もいなかったので自分でホテルや交通の便を調べなければならなかった。調べた結果、和歌山には JR 和歌山駅、南海和歌山市駅があったが、私は南海和歌山市駅の近くのホテルを選んで予約した。和歌山大学までの交通の便がよかったこともあったが、なんとなく和歌山市を代表する中心地であるのだろうと期待していたからでもある。

しかし、最初に南海和歌山市駅について私が思いついた色は“灰色”だった。冬だったせいもあると思うが、人も全然いないし、駅の前に並んでいるお店はだいたい閉めてあって、むしろ寂しさを一層深める役割をしていた。これは私が感じた和歌山の第一印象だったので、正直に言うと和歌山で暮らすまではがっかりしていた。実際に和歌山に引っ越してから和歌山市は和歌山駅を中心に発展していることがわかったが、人が集まらなくなっている南海和歌山市駅は何か和歌山市の住民に愛されてないような気がした。

そして私はこういう南海和歌山市駅をもっと元気があふれる音楽が流れる駅に作り替えたいと思った。南海和歌山駅がさびしく見えるのはもちろん人が少ないこともあるが、人の数に比べて広い道が一層寂しさを増しているように思える。こういう点を長所として考えて駅を発展させたいと思う。

松本駅の近くにある大きなカフェの隣には小さな空いているスペースがある。そこは週末になると大学生バンドや音楽塾に通っている人たちの舞台として使われている。そして、彼らの演奏は、松本駅を利用する人たちの足を引き止めていた。松本駅はいつも人が多くて音楽が流れていた。

南海和歌山市駅はさらに道が広いので松本駅よりいい環境だし、また交通などもすごく便利なので少しだけこういった公演ができるように奨励するとすぐに人が集まると思う。バンド演奏や、塾が小規模な無料公演などを行うことによって、その音楽は人を呼び、南海和歌山駅は明るく元気があふれる駅になれると思う。人が集まり始めるとどんどん駅周辺のお店の経済が円滑に復興していく可能性もある。これ以外にも、週末だけ路上で市場を開くとか、フリーマーケットを開くことも南海和歌山市駅が住民にもっと愛される一つの方法ではないだろうか。

和歌山市と松本市は似ているようが、実際に暮らしてみると全然違うそれぞれの特徴を持っていると私は感じた。松本には賑やかで元気な駅がある反面、和歌山には温かい心を持っている人々がいる。私が最初に和歌山に出会った時、和歌山の印象は良くないと感じたが、和歌山で暮らすうちに、表面には見えない和歌山の魅力にはまってしまい、今は幸せな毎日を過ごしている。また和歌山であった温かい人々と一生忘れられない大切な思い出を作っている。実際に暮らしてみないと感じられない、隠れている和歌山の魅力をみんなにもっとわかってもらえるように、私も和歌山の住民の一人として愛情を持って頑張りたいと思う。私が今和歌山に提言する一言は小さい声にすぎないが、こういう住民たちの関心や努力が集まって、和歌山が全国でもっと愛される街になることを期待している。